

**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
**(仮称)西院日照町 共同住宅 新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	-	1.0	-	
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.6</b>
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>								<b>3.0</b>
3.1 屋光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光率	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.60	3.0	0.71	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 屋光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	0.29	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光制御	●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>								<b>3.0</b>
4.1 発生源対策				3.0	0.25	3.0	1.00	
1 化学汚染物質				3.0	0.60	3.0	0.63	
4.2 換気				3.0	1.00	3.0	1.00	
1 換気量				3.0	0.40	3.0	0.38	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.50	3.0	0.33	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>								<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	3.0	1.00	
1 広さ・収納性				3.0	0.40	3.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観(天井高)	●とも	C(独自加点)		3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				4.0	-	-	-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			内外装材に防汚性、防錆性の高い材料使用	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.8	0.30	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				2.8	0.30	2.5	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり				-	-	2.0	0.50	
1	階高のゆとり			3.0	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	2.0	0.20	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	-	-	-	-	-
4 効率的運用				3.0	0.40	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	-	-	-	-
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	-
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	0.25	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち光に遮れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)	3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる